

令和6年度紫波町地域づくり取り組み発表会

赤沢地区 地域福祉の仕組みづくり

令和7年3月1日(土)
集落支援員 作山美奈子



赤沢地区の現状

国勢調査データをもとに（株）カントリ・ラボが独自に推計した数値
（参考）2020年の高齢者率 全国平均28.0% 岩手県平均33.7% 紫波町31.4%

国勢調査データ							独自推計値	
合計	1995年	2000年	2005年	2010年	2015年	2020年	2025年	2030年
人口	1,637	1,534	1,429	1,316	1,179	1,051	920	800
0～14歳	259	209	182	130	106	83	74	64
15～64歳	1,000	926	831	785	659	536	444	379
65～74歳	235	251	222	185	185	220	196	154
75歳～ 人口比	143 8.7%	148 9.6%	194 13.6%	216 16.4%	229 19.4%	212 20.2%	206 22.4%	203 25.4%
85歳～ 男+女	33 10+ 23	28 7+ 21	28 12+ 16	47 16+ 31	66 27+ 39	71 31+40	63 24+ 39	47 18+ 29
高齢者率	23.1%	26.0%	29.1%	30.5%	35.1%	41.1%	43.7%	44.7%
一般世帯数	381	377	375	365	355	348	320	290
高齢者のみの世 帯数と率	30 7.9%	40 10.6%	50 13.3%	48 13.2%	59 16.6%	80 23.0%	81 25.3%	77 26.7%
単独世帯数	18	26	33	46	52	69	69	68
独居高齢者数	16	14	22	27	32	42	42	40

紫波町平均の10年先を行く高齢者率だが、世帯人口の維持と前期高齢者の活躍で地域の暮らしを維持している状況

赤沢地区の現状

国勢調査データをもとに（株）カントリ・ラボが独自に推計した数値
（参考）2020年の高齢者率 全国平均28.0% 岩手県平均33.7% 紫波町31.4%

国勢調査データ

独自推計値

★ここ5年間の間、赤沢地区で起きていたこと

● 総人口：2015→2020 **-128人**

● 絶対数（国勢調査）

● 0～14歳人口の増減

2015年：106人／2020年：83人 ▲23人 ▲21.7%

● 15～64歳人口の増減

2015年：659人／2020年：536人 ▲123人 ▲18.6%

● 65～74歳人口の増減

2015年：185人／2020年：220人 +35人 +18.9%

● 75歳以上人口の増減

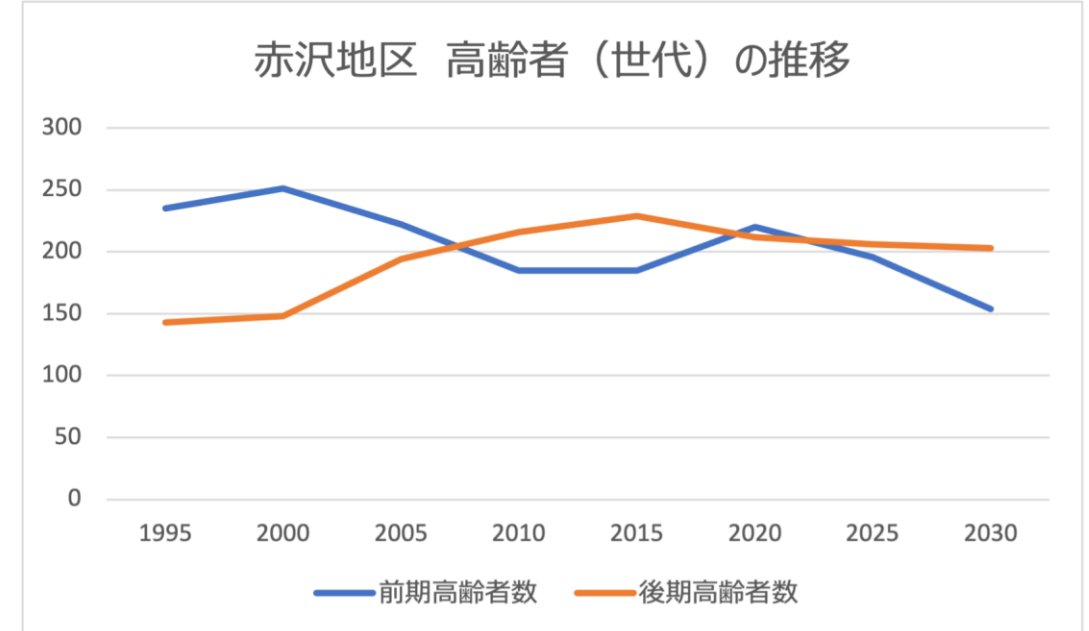
2015年：229人／2020年：212人 ▲17人 ▲7.4%

2015年	2020年	2025年	2030年
1,179	1,051	920	800
106	83	74	64
659	536	444	379
185	220	196	154
229 19.4%	212 20.2%	206 22.4%	203 25.4%
66 27+ 39	71 31+40	63 24+ 39	47 18+ 29
35.1%	41.1%	43.7%	44.7%
355	348	320	290
59 16.6%	80 23.0%	81 25.3%	77 26.7%
52	69	69	68
32	42	42	40

期高齢者の活躍で地域の暮らしを維持している状況

予測される未来 人口構成の大転換

- まもなく後期高齢者数が前期高齢者数を超える
 - 今まで交通安全、防犯、お祭り、教育など地域を支えてきた人がいなくなる
- 独居高齢者世帯の増加（約42世帯がそのまま**空き家予備軍**）
 - 高齢者のみの世帯（夫婦含め）も **4軒に1軒**。
- 家族が小さくなった
 - 世帯数の本格的な減少（5年間で約7世帯減少）。そのうち、**おひとりさま世帯は17世帯増加**。
 - 「世帯の誰かが地域の活動に参加できる」という形態はすでに崩壊している。



課題

- ◆**人口構成**の大転換によって、地域活動を支えてきた人がいなくなる。
- ◆少子高齢化、人口減少によって、家族の単位が小さくなる。



地域をこれまでのように維持できない／安心して地域で暮らすことができない。



⚠ 課題に対して、**新しい団体を作ってしまう**。ますます人の奪い合い。



⚠ **既存の対策を活かしきれていない**

地域をつなげる、これまでの取り組み

赤沢まるごと博物館

- 赤沢地区の魅力を伸ばそうと、赤沢まるごと博物館プロジェクト（地区創造会議）を行い、地区内外に発信し、地域の良さを見つめなおす機運を高めた。



KOMABAテラスプロジェクト

- 2020年、KOMABAテラスプロジェクトが中心となり、赤沢の地域課題を明らかにするために中学生以上全住民アンケートと、農地調査（果樹）を実施した。



地域をつなげる、これまでの取り組み

社会福祉協議会を再編

- 受け手がなくなった事業を中心に、社会福祉協議会を再編し活動を継承、さらにはさまざまな受け皿として機能させようとした。
- 自助・互助・共助・公助をスムーズに行っていく体制を構築すべく、地区社会福祉協議会を中心に、勉強会や若手を集めて検討会を重ねてきた。

支援員の配置

- 2024年5月に集落支援員が赤沢公民館内に配置されました。館長、指導員、集落支援員が情報共有をしながら、地域づくりに取り組むことで、活動の幅が広がり、

社会参加活動 地域中学生主催 サマーフェスティバル



理想の姿 --- 地域福祉でまちづくり ---

基本理念（目的）

『みんなで支え合い、誰もが安心して暮らすことができる赤沢』

基本目標（手段）

1. 誰もが一人の人として尊重され、健やかに暮らせる地域（人づくり・場づくり）

- 地域の一員として支援する側になったり、支援される側になったりするお互いさまの関係づくり

2. 誰もが主人公で、それぞれのできることが活かされる地域（活動づくり）

- 地域の困りごとを自分のことのように考え、それぞれのできることで解決する

3. みんなの支え合いで、安心して暮らせる地域（安心・安全作り）

- 災害や危険なところについて話し合い、確認し、できることから防災活動を行い、災害時は協力する

地域をつなげるために～実践①

紫波町が公共施設を民間に貸与→旧赤沢児童館の利活用



- 旧赤沢児童館を利活用し、幅広い世代の地域住民をつなぐ活動の場所を作る。
- これまでの公共的な施設（公民館等）や産直など以外に、新しい担い手も参加できる生産活動や経済活動を可能にするきっかけを作りながら、地域資源の多様な販路や活用を見出していく。
- 農地のデータベース管理や斡旋。さらに実験的に、将来の公共的事業の受託も想定した社会実験を行う（放課後子ども教室、学童、ディサービス、憩いの家など）

R6年の旧児童館使用イベント

カフェ&アンケート



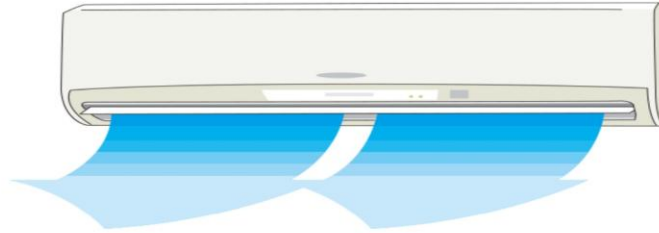
サマーフェスタで実施

夏休み 開放日

旧赤沢児童館の開放日

班回覧

暑い夏の日
クーラーで
涼みませんか



冷房を入れて、お茶等の飲物をご用意しておきます。

夏休み中の学生さんなら

涼しい場所で課題の勉強をしてもよし、
漫画やゲームを持ってきて楽しんでもよし、
園庭で遊んでも良いんですよ。

茶話会など

どなたかとお誘い合わせて、よもやま話などをするのも、涼しい場所であれば、快適に！

入場無料 クーラーDAY

開催期間 令和6年8月9日(金)

9:00~16:00

会場 旧赤沢児童館のホール

内容 冷房を入れるだけで、お茶以外何もご用意はしません。ただ、涼みに来て下さい。



お問い合わせ先 (赤沢公民館内) 赤沢地区社会福祉協議会 事務局TEL: 676-3036

児童館 お片付け

旧赤沢児童館お片付け
有志募集中!

旧児童館のなかに残っている物を整理整頓したいと思います。
人手がいます。お手伝いいただけませんか？

旧赤沢児童館のなかには、懐かしいものがたくさん残っています。
これから地域づくりの取組みとして使い方を考えていこうとしていますが、まず中の物を整理したいと思います。



●日時: 令和6年8月6日(火)
午前9時より
●場所: 旧赤沢児童館

暑い中での作業となりますので、
服装などの対策をお願いします。
飲物は用意します。

●お問い合わせ先
(赤沢公民館内)
赤沢地区社会福祉協議会
TEL: 676-3036
担当: 作山 (集落支援員)



♡マインド

・すべて、助成金や補助金でなんとかしようとしな。協力金や寄付金などを集めて、自分たちもお金を出している（参加している）ようにする。例えば、返礼品（御礼）は赤沢カレンダー。

第一回で出た「大切にしたい」「大切にすべき」ポイント

- ①農を広く捉え、食まで網羅するもの
- ②人が集まれる、集まる場所
- ③子どもたちの活動や、子育ての支援を支えるもの
- ④関わり合いを生む場（地域内や地域外）

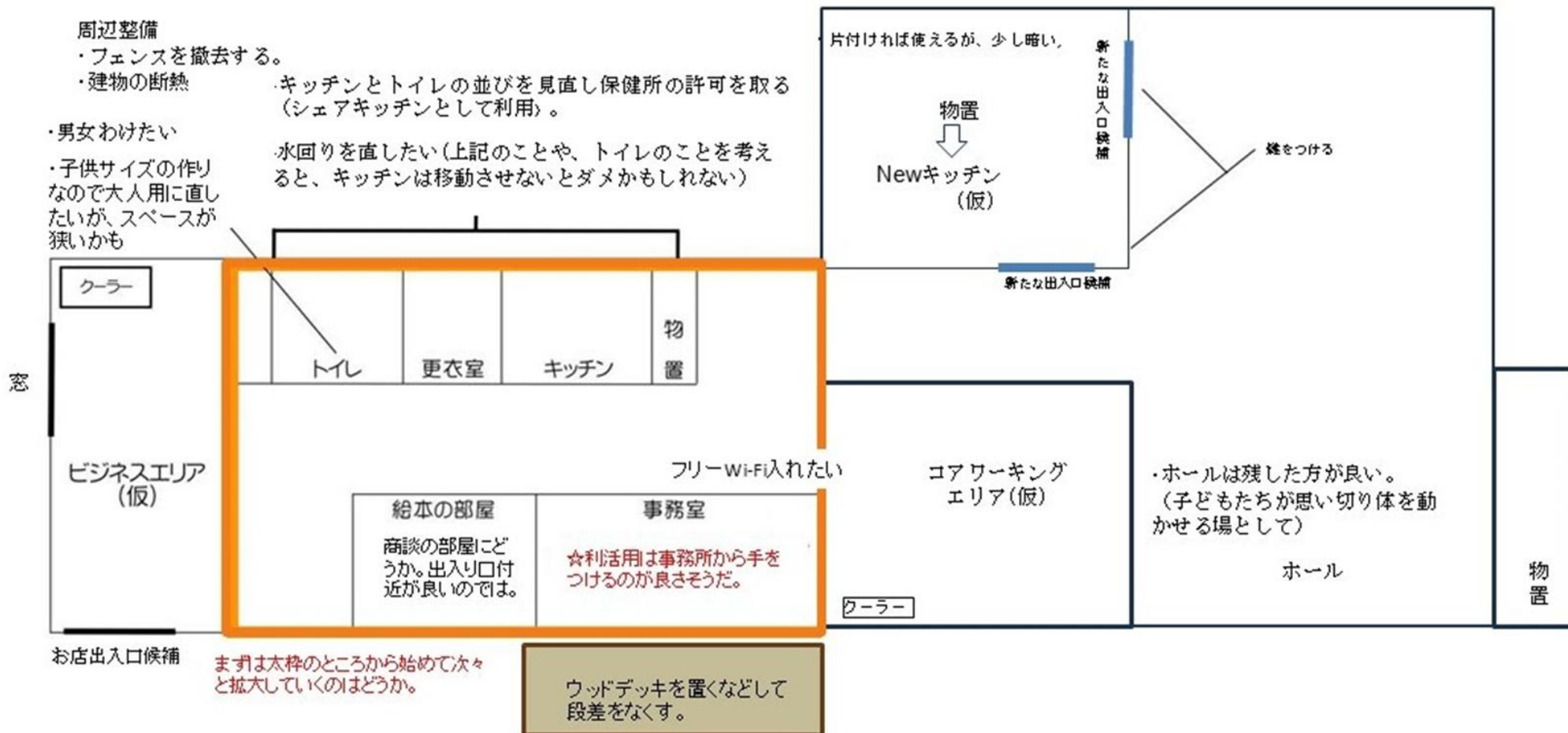
- ・フェンスを撤去する。
- ・建物の断熱

- ・男女わけたい

・子供サイズの作りなので大人用に直したいが、スペースが狭いかも

キッチンとトイレの並びを見直し保健所の許可を取る
(シェアキッチンとして利用)。

水回りを直したい(上記のことや、トイレのことを考えると、キッチンも移動させないとダメかもしれない)



地域をつなげるために～実践②

地域運営組織が全国で推奨される→農村RMO事業の活用へ応募

農村型地域運営組織（農村RMO）※1

協議機能 協議会（総会）

（小学校区程度のエリア）

集落協定
集落営農
農業法人
など



自治会・町内会
婦人会・PTA
社会福祉協議会
など

農村RMO形成は、上記のように連携するパターンの他、
農に関する組織が生活支援の取組に着手するものや、
生活支援の実施組織が農用地保全に着手するものがある

事務局

総務部

生活部

交流部

産業部

資源部

（地域住民の共通認識）
地域の将来ビジョン

実行機能

事業の実施

資源管理

生産補完
農業振興

生活扶助

農用地の保全



地域ぐるみの農地の保全・活用

地域資源の活用



直売所を核とした域内経済循環

生活支援



集荷作業と併せた買い物支援

「農村空間を管理」し、農産物供給、景観、レクリエーション等「地域資源」を活用、さらに交流や居住等「生活」の空間として活用。

赤沢地域づくり通信の発行

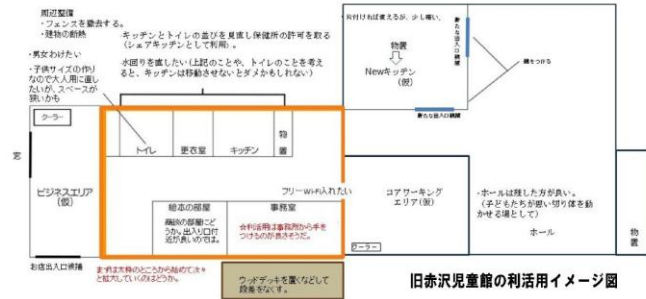
2024年（令和6年）10月23日発行

No.002号

赤沢地域づくり通信

発行：赤沢地区社会福祉協議会 電話：676-3036 担当：集落支援員 作山
協力：紫波町役場地域づくり課

facebookページを作りました。
アカウントをお持ちのかたは右のQRコードからご覧ください



旧赤沢児童館の活用について検討会「回目開催
間取り図で活用イメージ作り

一回目の話し合いで、旧赤沢児童館の建物の活用を考える際「大切にしたい」、「大切にすべき」ポイントが出されました。二回目は、それを踏まえて、どういうことをしていきたいか、できるだけうまくと言ったことを話し合っていました。

まずは、できる
ところから？

町へはすでに地域で活用したいという要望を出しており、用途や面積、使用料等、計画策定の際に考慮すべき点の回答をいただいています。

役場職員のかたにも同席いただき、とりあえず、やってみたいこと、あったらいいなと思っていることを出し合い、現状に



大切にしたいこと

- 農を広く捉え、食まで網羅するもの
- 人が集まれる、集まる場所
- 子供たちの活動や、子育ての支援を支えるもの
- 関わりを生む場（地域内外の両方）

やってみたい
ことはいいろいろ

食品製造業の許可も取ったシェアキッチンはどうか、フリーマーケットを導入し、地域の各団体や個人でも自由に使える事務スペースを作ってみてはどうか、また、農家と業者の商談なんかに使えるスペースはどうか、など地域で稼ぐためのアイデアや、子供たちに学校と家以外に安心していられる場所があってもいいという意見、飲み語る場所が欲しい、小暑ちよっとしたものが買えるところがあるという要望もありました。

皆で少しづつイメージを固めて、実現するためには何が必要になってくるのかをこれから話し合っていく予定です。

ご興味があるかたは、ぜひご参加をお願いいたします。

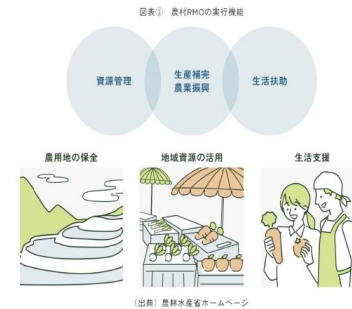
2024年（令和6年）11月27日発行

No.003号

赤沢地域づくり通信

発行：赤沢地区社会福祉協議会 電話：676-3036 担当：集落支援員 作山
協力：紫波町 地域づくり課

facebookページを作りました。
アカウントをお持ちのかたは右のQRコードからご覧ください



旧赤沢児童館を活用した事業のアイデアがいろいろ出てきていることは前回の通信でも報告しましたが、活用他にも農用地の保全活動など

農村RMOとは「農村型地域運営組織」のこと。地域の生活を支える多様な活動に加え、農用地保全や農業を核とした経済活動を行う組織。

を併せて取り組むことで、いわゆる農村RMOを形成し事業を行っていくために考えています。そのため、自治会や公民館、地区社会福祉

旧児童館の活用検討会 農村RMOに向けた取り組み 赤沢地区を維持する活動を

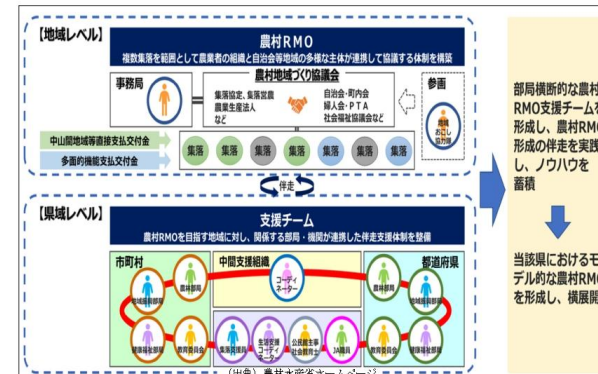
協議会、民生児童委員、消防団、老人クラブなど地域の各種組織が連携し、地域の生活を支える活動を行う体制を作っていく必要があります。皆様ご協力をお願いします。

また、農村RMOとして活動を行うことで事業に交付金などの支援を受けることができます。

交付金については上限1,000万円を最大3年間活用することができます。

行政・機関等が連携した伴走支援

また、現在の話し合いも役場地域づくり課や農政課の職員に参加いただいているのですが、取り組みを行っていくことで、地域レールの支援チームや、



全国レベルの支援も受けることが今後可能になります。

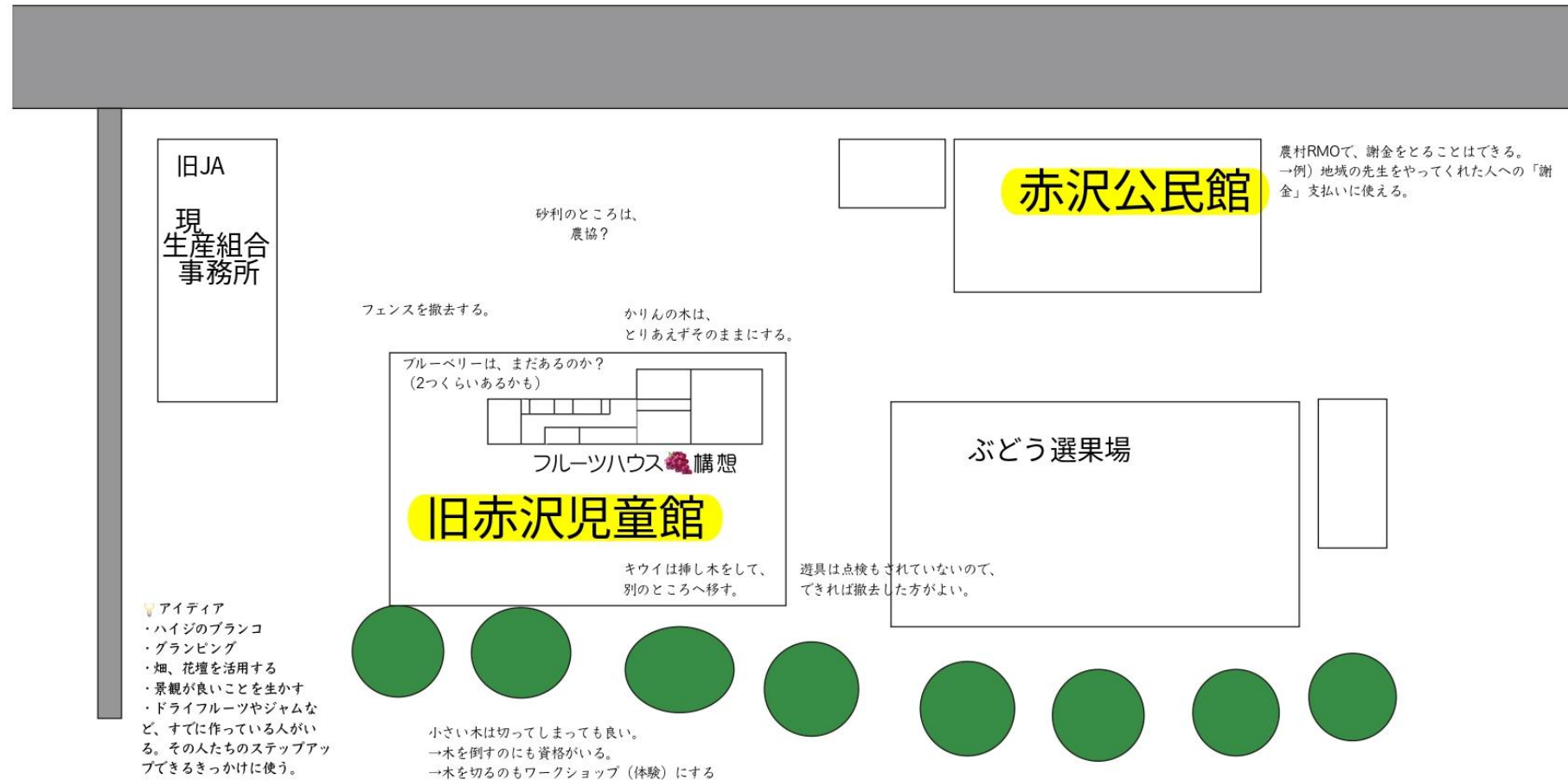
ほかに助成金・別の交付金を得られる活動や、クラウドファンディングの活用、自主財源となる

収益性のある事業を取り入れる等の方策を考え、赤沢地域のコミュニティの維持をしていくための自立した体制を立ち上げていくと考えています。

当該県におけるモデル的な農村RMOを形成し、横展開

公民館や既存の活動と一体になった活動を作る

公民館の存在を活かす



★高齢化や人口減少が進んでも、安心して暮らせる地域を創る

- 地域への愛着を失わず、できるだけ守っていく（ための人材を育てる）
- 課題に向き合い、未来を拓いていく体制を整える
- 今は地域を離れても、また戻って来られるきっかけをつくる
- 無理をしないで、新しい価値や活動も生み出していく
- 農業者以外も、若い人にも、暮らしやすい地域を創る

**人口が少なくなっても
地域を維持できる手立てを探る**





Facebook で赤沢の 地域活動を発信しています！

アカウントのある方は、右の QR から
ご覧いただけます



ご清聴ありがとうございました

